



NIPPON BEARING

1月24日付 日本経済新聞広告 『かくれ雑学』詳細

【カーリングで ゴシゴシこするのは 潤滑油を作っている】

日本女子選手の活躍によって、一気に知名度をあげたカーリング。

日本では有名になってから日が浅いため、「新しい競技なのでは？」と思う方も多いと思いますが、実は、500年もの歴史がある競技なのです！ 1511年の年号が刻まれたストーンが発見されたり、16世紀の絵画『狩人／ブリューゲル作』にもカーリングをしている姿が描かれていたりしています。

カーリングというと、『大きな丸い石を滑らせてぶつけて、氷上をブラシでこする競技』というイメージですよね。

でも、多くの方が「ブラシでこするだけで、ストーンの動きがそんなに変わるものなの？」と思っているのでは無いでしょうか？

ブラシでストーンの進路をゴシゴシこすことを、『スイーピング（掃く）』と言います。

スイーピングの役目は、以下の2つです。

- 氷上のゴミを取り除く

髪の毛や衣類の繊維程の小さなものでも、ストーンは進行方向を変えてしまいます。

- ストーンの進路のペブルを滑らかにし、溶かす

氷の表面にある小さなツブツブのことをペブルと言います。

ペブルがあることで、ストーンは少し持ち上がり、氷とストーンの接地面積は減少します。

スイーピングでペブルを溶かすことで、ストーンと氷の間の潤滑油となります。

ちなみに、この『掃く』という言葉は、近年まで『ほうき』を使っていた名残だそうです。

日本ベアリングのスライドガイドには、オプションで【ファイバーシート】を内蔵することが出来ます。このファイバーシートは、給油間隔を大幅に延ばすとともに、潤滑油を吸収する粉塵などが多い悪条件下でも優れた耐久性を発揮します。

直動ベアリングでもカーリングでも、潤滑油は動きや精度を大きく左右する陰の立役者と言えるでしょう。

カーリングのプレーは、『デリバリー（ストーンを投げる）』と『スイーピング』の2つだけです。

そのため単純そうに見えますが、起こっていることは、非常に科学的な考え方に基づいています。

例えば、回転力・摩擦力・ストーンの圧力による氷の融点の変化。

これらを複合的に考えて投げることで、ストーンをカーブさせることがあります。

カーリングの動きや、その動きを生み出す科学的な根拠は、ベアリングの構造にも通じるものがありますね。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】